

■開催概要

【開催日時】	2020年7月9日(木) 18:30~20:40
【場所】	東久留米市役所 庁議室
【出席者】	委員：平井、木村、青木、東、斎藤 事務局：土屋、道辻、他3名

■議事

1. 開会

会長より開会のあいさつがあった。

2. 議題

(1) 総合戦略の進捗状況報告および意見交換

事務局より、東久留米市の人口ビジョンについて及び東久留米市まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業の進捗状況確認表について説明があった後、意見交換を行った。

【東久留米市人口ビジョンについて】

委員)

◇ 参考として載せている市の人口について、外国人住人の増減も内訳として見えるようにし、今後注視したほうがいい。

委員)

◇ この総合戦略自体が人口減少に歯止めをかける目的だが、全国レベルで見ても、市の高齢人口と年少人口の比率は同じような割合である。全国の状況を見つつ、市としての対応を考えていく必要があるのではないかという印象を受けた。

事務局)

➤ 市の高齢人口は多いが、当初作成した人口ビジョンより、人口減少はゆるやかとなっている。しかし、目指しているほど出生率が伸びない現状もある。

会長)

◇ 人口ビジョンに沿った合計特殊出生率(2030年までに1.80まで上昇させる)はどのような展望なのか。

事務局)

➤ 当時、人口ビジョンを推計した際は、目指すべき出生率を置き、子育て支援施策を行ってきたが、現状としては厳しい状況ではある。

委員)

◇ 少子高齢化の問題の一つとして、税収の減少が考えられるが、高齢者が活躍し、収

入が増えるような施策があるといいのかもしれない。

委員)

- ◇ 市の人口減少が緩やかになっているのは、宅地化が進んでいるのも要因かと思う。しかし、今後宅地化が加速的に進む状況ではないと思うので、テレワーク用の賃貸住宅や空き家などの事務所活用に可能性を感じている。

事務局)

- テレワークに関する動きは、市も注視している。都のモデル事業で市の駅前にビルの一部にテレワークオフィスを展開するという情報も来ている。

会長)

- ◇ 人口が市の歳入に与える影響という面では、個人の市民税ならば有所得増、地方消費税交付金ならば人口自体の増、税収の半分を占める固定資産税ならば人口増で土地需要が増え地価が上昇するなどの様々な影響の与え方がある。

#### 【基本目標Ⅰ】

委員)

- ◇ ⑤について、駅前駐輪場が少ないということか。

事務局)

- 現在の駅前の駐輪場は民有地を借り上げている。土地所有者の意向で返還なども起こりうるので、安定的に運営するため、市の所有の自転車駐輪場の整備を進めている。

委員)

- ◇ 上の原グラウンドは今年の2月から一般貸出とのことだが、コロナの影響で利用はどのようになっているのか。

事務局)

- 一定期間の貸し出し停止は行っていたが、上の原グラウンドは屋外施設なので、比較的早い段階で利用できるようになっている。しかし、今年は通常の状態としての年間利用者数の集計はできないと考えている。

委員)

- ◇ 現在のコロナ渦で、場に行かなくても運動の機会が確保できることが必要になっている。

⑨について、今まさに豪雨による災害が起きている。私が運営する協会でも、民間会社と提携し、備蓄品を用意している。

一方で、KPIが食料品の備蓄になっているが、食料品以外にも段ボールなどを活用した備蓄品が重要である。現在、市ではなにか考えているのか。

事務局)

- 食料品以外の備蓄品について、今般のコロナ対策に係る交付金を活用して、セパ

レートテントや段ボールベッドなどの備蓄を進めている。

委員)

- ◇ 市には高齢者の方も多く、感染によるリスクの高い方にとって、避難所で一定の距離を取るための重要な対策である。

事務局)

- 補足になるが、避難所が密にならないため感染拡大防止として、広報等で災害時の分散避難を市民に呼び掛けている。

委員)

- ◇ 賞味期限が切れた備蓄品はどのようにしているのか。

事務局)

- 賞味期限が切れる前に、市の防災訓練の炊き出しなどで活用し、計画的に入れ替えができるようにしている。

委員)

- ◇ 協会でも、賞味期限1～2年前くらいに関係者に実際食べてもらい、このような備蓄品があることを知ってもらう機会を作っている。こうした取り組みは重要である。

委員)

- ◇ 私の会社でも、災害時の避難所として協力することを考慮し、あらゆる年代に配慮してトイレを和式から洋式に変えた。

## 【基本目標Ⅱ】

会長)

- ◇ ⑯の数値は減目標だが、新制度に移行する幼稚園が少なく、なかなか減っていかないようである。幼稚園側がインセンティブを感じられないのかもしれない。

委員)

- ◇ ニーズが低い事業の組み替えなどをして、その予算を新しいニーズに充ててもいいのではないかと。子どもに関する事業のなかでも、例えば急なコロナ禍の状況で、両親が感染・入院した際に子どもを預けたいなどの新たなニーズも生まれていると思う。

事務局)

- このような先の見えない状況だが、市として子どもを安心して預けられる環境整備を引き続き行っていく。

委員)

- ◇ 地域子ども・子育て支援事業（13事業）というものがあり、経年で見えていく必要があり、また予算の関係もあるので、すぐに事業を組み替えるのは難しいのかと感じる。

⑳について、以前の会議でシルバー人材センターの受け手側の事情をきけて参考に

なった。子どもの放課後の過ごし方に関する事業については、時間帯的に重なるものはあるのだが、それぞれ異なる性質がある。放課後デイサービスなどは、コロナ禍での家庭内の障害児ケアの負担軽減になったようである。

KPI指標については数字が減ったほうがいいのか、増えたほうがいいのか難しいものもあると感じた。

会長)

- ◇ ㉓の学童の件は外部評価会議でもでたが、学童の対象年齢が小学校3年生から6年生に上がっている。年度初めには待機児が出ているようだが、夏休みすぎると小学校4年生を中心に学童に来る人数が減るときいているが。

委員)

- ◇ 現場はそのような傾向にあるよう。実際、夏休み明けに再募集なども行われている。

委員)

- ◇ 今年度から学童が2館民間委託された。市としては新しい取り組みであるが、子ども子育て会議の会長として2館が順調に運営されているか、訪問に行った。コロナ禍だが、民間ならではの取組もあり、上手くいっているようであった。

### 【基本目標Ⅲ】

会長)

- ◇ ㉑と㉒について、起業を支援する事業として男女を分けるニーズはないのではないか。起業するにあたっての市場では変わらないのではないか。

事務局)

- ㉑の事業を立ち上げた当時は、講座を定期的で開催することで起業や雇用の促進になればと考えていた。しかし、講座は参加人数を多く、広く機会を設けられるが、説明にもあったように話す内容が一方通行になるという面もあるので、起業などケースごとの対応としては個別相談にシフトしていったという流れになったようである。また、女性の起業に関する講座も女性ならではの視点でお互いが情報交換をしてもらうなど一つの手段と考えている。このような事業は時代の変化に合わせて引き続き取り組んでいきたい。

委員)

- ◇ 実際の創業支援融資は延滞が増えている。起業後にいきなり破産してしまうようなケースが見受けられるが、起業後の資金繰りなどのフォローが十分でないからではないか。起業は簡単ではないと感じるが、やはり手に職で技術のある方やあまり大きな金額を借りず地道にやっている方は続けていけている傾向にあると感じている。コロナ禍で商売のやり方を考えていかないと厳しい状況であるので、それを後押しする施策があればいいと思う。

委員)

- ◇ ⑳の上の原地区の件については、選択と集中が必要だと考える。以前も提案したが、外資系の企業などを誘致し、外国人の住居を用意し、特区のような形も考えられるのではないかと。いずれにしても、市にとって有効なものと考えてほしい。また、㉑の事業が終了となったとのことだが、これから起業する方や地元産業の方にとって、ブランド認定事業がないと盛り上がらないのではないかと。

事務局)

- 上の原地区の土地利用構想では、整備計画のように未着手の土地には教育施設や研究施設などの立地誘導を図る方針としている。地区全体としては、ある程度賑わいのある地域になってきていると思う。しかし、未着手の土地については、現段階で具体的な動きはない状況にある。

#### 【東久留米市チャレンジプラン】

会長)

- ◇ 前回会議ではチャレンジプランについて、意見交換の機会がなかったので、私からお願いして今回は入れてもらった。チャレンジプランにある新児童館の開館だが、成果として重要なのはその児童館ができたことで、その後どうなるかということである。現在、新児童館で産官学連携事業を行っているが、当初想定していたように進まない部分があった。市としてのモデル事業であるので、様々な経緯があったが、組織として経年しても経過や現状を把握してほしいという思いがある。

委員)

- ◇ 学生さんがフィードバックする場はあるのか。

会長)

- ◇ イベント後に児童館も交え、反省会をしている。

事務局)

- このような連携事業はみなさまのご協力から成り立っている。立ち上げ当時の想定通りにはいかない部分もあるので、継続して実施していく中で、より良い形を整理していかなければいけない。

会長)

- ◇ 協定書がかなり細かい役割を決めていた。もう少し、柔軟な枠組みとしたほうが良かったのかもしれない。枠が無いと事業はできないが、枠が固すぎても難しいと感じている。

委員)

- ◇ ひとつの事業に対して、5者が必ず関わらなければならないという枠組みだと、幅が狭まるのかもしれない。それぞれの持つ資源を上手く組み合わせた事業を展開していけばいいのではないかと。

(2) その他

事務局より、資料3に基づき今後の総合戦略の方針について説明があった。また、任期満了に伴い、現体制の懇談会はここで一区切りとなる旨の説明があった。

会長)

◇ 現体制はここで一区切りとのことなので、みなさまに一言ずつお願いしたいと思います。

では、よろしければ私から。

次期計画を策定する際には、KPI指標の立て方を検討してほしい。特にインフラや箱物は、建設していくことが目的ではなく、むしろ建設後の運営について、ライフサイクルで指標を考えたほうがいい。また、目標値と実績数が離れているものも、そもそものニーズやキャパシティーに乖離があるのではないかなど、注視するべき点だと思う。

委員)

◇ 長期総合計画基本構想審議会でも、コロナ禍の視点を入れるべきだとの意見もあるので、次期総合戦略でも整合性を図り、その視点で策定してもらいたい。また最近では災害が多いので、それに対応した事業も入れてほしい。

委員)

◇ 立ち上げから意見交換を行ってきたが、反省点も多々あると思う。総合戦略を通じて、国でも市でも成果があったもの、なかったものがあるが、先ほどあったように、成果指標を見直しながら次期計画を策定してほしい。新型コロナウイルス感染症に対する新たな視点も入れてほしい。

委員)

◇ この会を通じて、行政の仕事は広範囲だと感じた。コロナ禍にある現状も踏まえると、やはり安全安心にかかる仕事がまずは大事だと思う。

そのうえで、産業を活性化するには、税制的・法律的な仕組み、基本的な経営的のやり方、ビジネスモデルや市場開拓などの三層を意識した支援が重要と考える。

私の会社では、事業用に部屋を貸し出しているが、最近は異業種の方も多く借りるようになった。その中で新しいつながりもできているので、今後、異業種交流などの活動を促進することで、新たなビジネスにつながれば良いと感じている。

委員)

◇ 前任者からの交代で委員になったが、様々な立場の方々と意見交換ができ、大変勉強になった。市には地域愛のある事業者が多いので、今後も協力して地域に貢献していきたい。

3. 閉会

会長より閉会のあいさつがあった。